HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	マンロー・谷往復書簡による社会ネットワークの復元とその活用
著者	手塚，薫；TEZUKA，Kaoru
引用	年報新人文学(07)：216-263
発行日	2010-12-25

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

[論文]

マンロー・谷往復書簡による社会ネットワークの復元とその活用

手塚　薫

はじめに

ニール・ゴードン・マンロー（一八六三年―一九四二年）はスコットランドに生まれ、エディンバラ大学で医学を修めてインド航路の船医となるも、寄港先の横浜が気に入り船を降り、やがて日本国籍を取得し、晩年は北海道の二風谷で無料診療のかたわらアイヌ文化に関する調査を実施し、クマ送り儀礼をはじめとする貴重なフィルムや研究資料を残した人物である。人類学のフィールドワークを確立したB. マリノフスキーも師事したC. セリグマンから、本格的なアイヌ文化研究を勧められ、二風谷に移住してからの数年間をアイヌ研究に打ち込んだ。文化変容の本格的な嵐を経験する前の昭和初期に、マン

ローが残したアイヌ文化にかかわる膨大な資料を、現代のアイヌを含む人々が当時のアイヌ文化を再構成する資料として活用しようとする動きが顕在化している[1]。このような状況のもとで、マンローのアイヌ研究の目的をあらためて問い直すことは決してむだではないだろう。なぜなら、異文化を表象する権利がいったいだれにあるのかという疑問や、現地の人々自身の様々な声や語りを抑圧せずに、フィールドワークの結果としての民族誌を産み出すことの困難さをめぐる議論がわき起こっているからである[2]。不特定多数の、通常は匿名の現地住民と民族誌学者との間の既定の権力作用に支えられながら収集された資料や情報を、恣意的に編集した結果描き出された像は、J. クリフォードのいう「誠実な真実のフィクション」に過ぎない。フィールドワークにもともと内在するこうしたコロニアル的危うさといった本質を考慮に入れてもなお、マンローの『Creed and Cult』などの民族誌が読み継がれ、あるいは彼と交流のあった村人たちのマンローを敬慕する情に翳りが見えないのはなぜだろうか[3]。いったいマンローのフィールドワークの手法はいかなるものであったのだろうか。この点を踏まえずして、その研究成果だけを現代のわれわれが都合よく利用するという態度は、調査する側の研究倫理[4]に照らしてみても適切なこととはいえないだろう。研究の目的と態度を明らかにしてその研究成果を活用することが、成果の無用な誤解や乱用を避ける上で今後ますます重要となるに違いない。

1　現存する3大マンロー関係書簡と北海道立文書館所蔵コレクション

筆者はこれまで、マンローの研究の目的をめぐっては、国内外の所蔵機関に分散して保管されている

書簡類を検討することが重要であるとの立場をとっている。二〇〇二年に札幌と横浜の博物館で開催された財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構主催の特別展『海を渡ったアイヌの工芸―英国人医師マンローのコレクションから―』の展示企画を担当し、展示会に先立って英国の王立人類学研究所（Royal Anthropological Institute 以下 RAI と表記）に保管されていた書簡類の一部の閲覧が許されたときにその量と内容の豊かさに驚いた。

しかし、保存状態や著作権などを理由に、すべての書簡が公開されたわけではなかった。また、その完全な目録も存在していなかった。さいわい展示会の開催以降、科学研究費補助金、および大学共同利用機関法人人間文化研究機構連携研究や国立歴史民俗博物館共同研究の経費によるいくつかの研究プロジェクト[5]を複数の研究者が共同で運営することによって、所蔵機関の代表者との情報交換を進め、書簡だけでなくマンローのすべての文書・写真・映像資料をデジタル化して公開に道をつなげる国際的な委員会（正式名称「ニール・ゴードン・マンロー関連資料デジタル化プロジェクト」）を結成し、筆者もその一員として携わってきた。

マンローの日本滞在時の生活や研究の状況がわかるものとして最も多くの情報を提供してくれる書簡は3つのコレクションに分かれる。それらは UK の RAI と国立スコットランド博物館（National Museum of Scotland 以下 NMS と表記）、日本の北海道立文書館（The Archives of Hokkaido 以下 TAH と表記）である。前者はマンロー関連資料デジタル化プロジェクトの対象資料に含まれており、すでにデジタル化作業が終了し、二〇一一年には国立歴民俗博物館の研究報告でその書簡類に基づいた研究成果を発表する予定である。

今回分析の対象にしたのは、日本にあるTAHのマンローコレクションである。その特徴は北海道庁職員谷喜次郎(6)とマンローの間でやりとりされた書簡がまとまっている点である。谷は、アイヌ民族に対する自治体や国の施策にもともと関心があり、道職員になる以前から日高支庁内のアイヌ民族の村々を視察するなどしていた。谷はマンローとの交流を行政職員として事務的に行っていたわけではなく、お互いに家族を伴っての行き来があり、戦時体制下にあっても、困窮するマンローに食料品を贈るなど、マンローの生活を支えるキーパーソンになっている。

マンロー研究をライフワークとしてきた出村によれば、二風谷時代のマンローの日記が存在していないため、TAHの貴重な書簡により、「二風谷時代のマンロー博士夫妻の生活やアイヌ文化研究の一端が鮮明」となり、戦時体制の進展とともに「博士の思考・苦悩等、そして、谷氏がマンロー博士の良き相談相手であった」ことなどが読み取れるという(7)。

谷は二風谷のマンローから発信された書簡28通とマンローの滞在先であった軽井沢サナトリウムから発信された書簡3通を保管していたのみならず、自宅のある札幌円山町から谷自らが発信した書簡全20通の写しをもっており、一九七八年にそれらを一括して北海道行政資料室に寄贈した(8)。現在はTAHに保管されており、資料請求記号は「289.3マン」となっていて一般の人々の閲覧も許可されている。

両者の間で短期間にやりとりされた書簡に記述された一連の話題には連続性があるので、第3者がそのやりとりをフォローすることも比較的容易である点も資料的な価値を高める重要な特徴となっている。マンローが書いたものは、補足や手直しによるもの以外は基本的にタイプ打ちであり、手書きのものははがきに限定される。一方、谷の書いたものは手書きである。発信時期に関しては、マンローが送

ったものは一九三六年十二月十日から一九四一年五月十四日の間に書かれ、谷の送ったものは一九三六年九月十一日から一九四一年十一月十七日の間に書かれたものである。両者ともに特定の年に偏ることなくコンスタントに書かれているため、マンローの二風谷時代の様子を比較的よく知ることができる。

ちなみに、NMS所蔵のマンロー書簡は44通（うちマンロー本人が書いたもの39通、他人がマンローに送ったもの5通）、RAI所蔵のマンロー書簡の42通（うち本人の手になるもの41通、他人がマンローに書き送ったもの1通）と比べても量的に見劣りがしない。NMSの書簡は一九〇八年十二月二十一日から一九四〇年五月二十七日の間に書かれているが、その大半は北海道に移住する前にやりとりされたものである。一方RAI書簡は、TAH所蔵のものと同様、一九三一年二月十日から一九四〇年八月二十八日までの間に書かれたもので、二風谷時代が中心であるが、TAH所蔵のものよりも若干古い時期を反映したものとなっている。

2　理想的なフィールドワークの4要件

日本文化人類学会の学会誌『文化人類学』では、二〇〇七年に72巻3号で「人類学的フィールドワークとは何か」という特集を組んだ。その序論ではフィールドワークの4要件として次の4つを掲げている[9]。

（1）長期の現地滞在

（2）現地の言語の習得
（3）現地の人々との信頼関係（ラポール）の構築
（4）現地社会の一員として受け入れられること

これらは人類学的フィールドワークを、他のフィールドワークと区別する特徴となっている「参与観察」の前提ともいうべき要件である。ここでマンローのフィールドワークがどのようなものだったかをひとつひとつ検証してみたい。

まず（1）の現地での長期滞在は、一九三一年の平取村二風谷で土地を購入して住居を建設し、亡くなる一九四二年まで、夏は軽井沢で診療活動を行う以外は二風谷に滞在しているので、クリアしているといえる。

（2）の現地の言葉の習得は、アイヌ語はもちろんのこと、一九三六年十二月十日付けのマンローから道庁職員谷へ宛てた手紙のなかで、自分が日本語を上手に話せないことが（周囲の人たちとの意志の疎通をはかる上で）、大きな障害となっていることを素直に認めていることでわかるように不十分である。では、アイヌとのコミュニケーションはどうだったのであろう。一九三七年七月十一日付けの谷へ宛てた手紙では、アイヌの古老に対しマンローが発したおそらくは日本語の質問に対する古老の答えを、同居している妻のチヨが聞き直すなどして正確を期していることが明らかとなる。夫唱婦随の調査方法が中心となっていたことを示唆する。

（3）の現地の人々との信頼関係の構築に関しては、マンロー家のお手伝いを務めた青木ときの「神

様のような人」という有名な評価を持ち出すまでもないが[10]、おおむね達成されていると見なすことができる。これには無料の診療活動を展開していることが大きく作用しているように思われる。例えば、一九三八年十月十六日付けのマンローが谷に宛てた手紙では、「和人であろうとアイヌであろうと貧しい人たちを常に助けてきた」と綴られており、これが単にアイヌからの情報収集を円滑にさせるための手段であっただけとも思えない。生活費を稼ぐために夏の間は軽井沢のサナトリウムで診療にあたるときにも、同じ手紙によれば、遠方からはるばる診察を求めにやってくる貧しい人々への診察は、少額の投薬代をのぞけばただで、X線の撮影さえも無料であったために、採算を意図したものではなかった。したがって、地域を問わずに貧しい人たちに対するマンローのヒューマニスティックな医療姿勢を示すものと考えていいであろう。マンローは、結核患者が多い当時の二風谷の状況を憂慮して、住居の窓を大きくその数を増やし、床を高くすることを実際に住民に勧めていた。このことは「酒を飲むな」という言葉と共に二風谷の住民の間に伝承されており、予防医学に重きを置く実践的なアドヴァイスではあったが、アイヌに不快感を抱かせるような高圧的なものではなかった[11]。

（4）は（3）とも密接にかかわるが、好意的に受け止める住民も多かった一方、すべての人たちに受け入れられていたとは思えない。それは一九三九年一月二日付の二風谷から谷に宛てた書簡のなかで、「ここで私たちは依然として不愉快なゴシップの渦中にいます」と書き綴っているように、マンローがスパイであると噂されていることにいらだちを隠せないでいる。その原因を、自分では、ある悪徳商人に村人のためになるようなこと（酒を売ることをやめさせようとした）をしてほしいと要求したことの意趣返しであることに求めている。もしこれが事実であれば、村の現状を改善させるなどの行為に

積極的に荷担していることになり、フィールドワーカーとして適切な行為であるとはいえない。B.マリノフスキーやW.リヴァーズによりフィールドワークの常道として主張されたように、調査者との接触はかならず調査される社会をなにがしか変化させ、攪乱してしまうことになるので、ネガティヴな影響を最小にするためには一人で活動することが求められているからである[12]。先に述べたように、マンローの調査にはチヨの協力が欠かせなかったのであり、アイヌの助手も起用している。

以上のことから、書簡の内容に基づくと、マンローのアイヌ情報の収集作業にはアマチュア的な手法が見え隠れしている。マンローの研究アプローチが往々にして「軽率な一般化」をはかりがちであることや「不適切なパラダイム」の援用の点で指弾されるケースがあることもこれと関連がある[13]。書簡はマンローの行動様式や個人的な心情を復元する上で重要であり、従来から部分的に利用されてきたことも事実である。書簡のなかの都合のいい部分を、恣意的に編集し、組み合わせながら、マンローの個性や行動準則に迫るやり方の限界を個人的に痛感していた。これまでは断片的な回想などを軸に、マンローの人間性がまず先にあって、それに見あった情報を取捨選択している恨みがあった。同じ書簡を利用しながらも、マンローの個性を示す互いに矛盾する要素もトータルにシステマティックに考察しうる手法の導入を検討してみたいと思っていたところであった。

フィールドワーカーの個人的な資質や主張だけで、あの膨大な民族誌データがマンローによって産み出されたわけではない。卓越した知の主体としての研究者がたった一人で、当該社会の全体像を把握することが理想とされる人類学フィールドワークの常道とは異なり、アイヌ、和人、外国人を問わず、多くの人たちの協力のもとでアイヌ研究を進展させたことがマンローの特徴である。そこで、マンローと

彼をとりまく人間関係全体を同時に俯瞰することができるように、縮約して可視化する社会ネットワーク分析（SNA）を採用し、マンローを中心とした社会ネットワークを復元することにする。

3　社会ネットワーク分析の目的と方法

社会ネットワーク分析は、世界を「ネットワーク」と捉える視点から発展した理論・方法論であり、分析対象を単なる要素の寄せ集めとは見なさず、また個々の集合としての集団や組織の並列と捉えるのでもなく、よく観察しなければ見えない個人や集団の絶えざる相互作用の複雑なネットワークと見なす立場である[14]。この意味では、還元主義的な考え方というよりは、部分の分析よりも全体の構造を重視するホーリズムに依拠しているといえそうである。近年の社会学、人類学、組織論、経営論といった学問分野で、ポピュラーかつ有用な分析手法として注目されている。

知人関係から家族の強い絆まで、様々な社会的文脈で接続する個人間の関係を縮約した概念図を構築し可視化する。また、この分析では個人間を結ぶ紐帯が重要であると考える。なぜなら、人々を結ぶ紐帯は、これに沿って行動が行なわれ、態度、情報、物品を伝える重要な回路となっているからである[15]。分析のレベルは個人間に限定されることはなく、国家間の経済活動など、様々なレベルの問題に適用できる。社会ネットワーク分析では、ノード（nodes）と紐帯（ties）という単位に基づいて社会的な隣接性を検討する。ノードとは、ネットワーク内に存在する行動の主体者としての個々人を表し、紐帯とは、その個々人を結びつける線を表す。したがって、ノード間の考えられうるすべてのつな

がりを紐帯で表現することができる。この単純な定義のもと、社会ネットワークは可能な限りのノードを適切な紐帯で結びつけた「世界地図」であると見なすことができる。

SNA の特色となぜそれを用いるかについては以下のように要約できる。

1. 一連のまとまった資料に依拠し、大規模で複雑な社会ネットワークの本質部分を要約し、視覚的に取り上げ、同時に俯瞰することができる。因習的な分析では見落としや思い込みなどがつきまといがちであることから、その有効性を発揮できる。
2. 特定の資質や個性に注目して評価・定義されてきたネットワークを再検討することができる。
3. 特定人物が社会ネットワークでどのような位置を占めて、どのように機能しているかを、中心性やクリーク、構造的空隙などの様々な指標を利用して評価することが可能である。
4. 一見してわからなかったキーとなる人物の特定ができる。
5. ノード間の関係もさることながら、他人を経由して広がる、より複雑な二次的な社会関係の構造を探索しやすい。
6. あるイベントは、それと直接かかわりのある人間関係でのみ判断されることが多いが、間接的なものも含め、他の人間同士の結びつきによって影響を及ぼされることも多く、社会ネットワーク全体を常に議論の対象におさめる必要がある。

対象

マンローのドキュメントは、書簡、ノート、映像、写真、メモなど膨大な量に上るが、差出人と受取人、手紙の作成日が判明しているものが多く、マンローに直接、または間接的に影響を与えた多くの人物について言及されているRAIとNMSに所蔵されている書簡がきわめて重要である。短期間に日本と海外を中心にやりとりされた書簡がRAIとNMSには奇跡的にまとまって保存されていることが近年明らかになり、分析の対象としての十分な意義を有している。現在これらの資料の詳細な分析結果が、日本とUK双方の関係者の努力によってまとめられつつあり、早ければ二〇一一年春に成果の刊行が期待できる。このように、歴史的なネットワークを再構成するためには、ある程度まとまった量の一次資料が必要になる。

ここではUKにあるマンロー書簡に匹敵する量と内容を誇るTAH資料を中心に扱う。資料の性格についてはすでに述べたが、マンローの晩年の活動を濃密に反映するRAI書簡とは密接な関連を有している点が特徴となっている。

手法

今回分析の対象とした書簡類を時系列ごとに並べ、次の情報を取り出して人物ごとに順番に表にまとめた。それらは、Family Name（姓）、Given Name（名）、Date of Documents（文書作成・投函日付）、P/S/T（情報の経由特性）、Information Flow（情報の流れ）、Letter/Verbal/Behavior（接触の形態）、Topics（トピック）、Relationship or Position（マンローや谷との関係または地位）、Context（Pos/

表１　谷が投函した書簡に記載された基本情報

Family Name	Given Names	Date of Doc	P / S / T	Information Flow	Letter / Verbal / Behavior	Topic（s）	Relationship or Position	Context（Pos / Neg / Neu）	Location（if known）	Notes
Munro	N.G.	11/09/1936	P	T⇆	Letter	Your Property	Friend	Neg	Sapporo	
Ishikawa		11/09/1936	P	T⇆	Verbal	Your Property	Soncho	Neu	Nibutani	
Bachelor		11/09/1936	P	T⇆	Verbal	Going Home	Missionary	Neu	Sapporo	
Munro	N.G.	10/11/1936	P	T↦M, Chi	Letter	Medical Regsitration	Friend	Neg	Nibutani	
Nitani	Bunjiro	10/11/1936	P	T⇆	Letter	Medical Regsitration	Official	Neg	Piraotori	
Ichibayashi	Ichiro	03/12/1936	P	T↦	Letter	Introduction	Official	Neu	Sapporo	Chief of General Affairs of Hidaka Shicho
Munro	N.G.	24/12/1936	P	T⇆, Chi	Letter	Frank Advice, Visit	Friend	Neu	Nibutani	
Nitani	Bunjiro	24/12/1936	P	T⇆	Letter	Visit	Official	Neu	Nibutani	
Munro	N.G.	22/03/1937	P	T⇆	Letter	Inflenza, Mining Inspection	Friend	Pos	Nibutani	
Expert		22/03/1937	P	T⇆	Letter	Coal	Hokkaido Univ.	Neu	Sapporo	
Sasaki	Ichitaro	22/03/1937	S	T↦	Letter	Prospecting Right	Villager	Neu	Nibutani	
Munro	N.G.	04/06/1937	P	T⇆	Letter	Article on the Ainu	Friend	Pos	Nibutani	
Onodera	Goichi	04/06/1937	P	T⇆	Behavior	Article on the Ainu	Official	Pos	Sapporo	
Keller	Helen	04/06/1937	T	T←I	Letter	Visit	Celebrity	Neu	England?	
Munro	N.G.	02/07/1937	P	T⇆, Chi	Letter	Adjudication	Villager	Neu	Nibutani	
Lawyer		02/07/1937	P	T⇆	Verbal	Adjudication	Lawyer	Neu	Sapporo	
Munro	N.G.	04/07/1937	P	T⇆, Chi	Letter	Reward, Drill	Friend	Neu	Nibutani	
Lawyer		04/07/1937	P	T⇆	Verbal	Reward	Lawyer	Neu	Sapporo	
Munro	N.G.	16/07/1937	P	T⇆	Letter	Articles	Friend	Pos	Nibutani	
Shakai–ka		16/07/1937	P	T⇆	Letter	Articles	Official	Pos	Sapporo	
Kuroda	Hikozo	16/07/1937	P	T↦	Letter	Marriage Registration	Friend	Neg	Nibutani	
Lawyer		16/07/1937	P	T⇆	Verbal	The Documents	Lawyer	Neu	Sapporo	
Munro	N.G.	03/12/1937	P	T⇆, Chi	Letter	Personnel Transfers	Friend	Pos	Nibutani	
Tani's Brother		03/12/1937	P	T⇆	Letter	Success	Relative	Pos	Tokyo	
Munro	N.G.	18/06/1938	P	T, T'sW⇆	Letter	Gratitude, Festival	Friend	Pos	Nibutani	
Batchelor		18/06/1938	S	T←I	Letter	Return to Japan	Missionary	Neu	Sapporo	
Munro	N.G.	21/08/1938	P	T⇆, Chi	Letter	Photographs of Daughters ; Visit	Friend	Pos	Nibutani	
Munro	N.G.	30/08/1938	P	T, T'sW⇆, Chi	Letter	Gratitude, Pictures	Friend	Pos	Nibutani	
Munro	N.G.	30/04/1939	P	T⇆	Letter	Your Trip, Soncho, Pete	Friend	Neu	Nibutani	
Ishikawa		30/04/1939	P	T⇆	Behavior	Sales	Soncho	Neu	Nibutani	
Pete	Goro	30/04/1939	P	T⇆	Behavior	Treatment	Acquaintance	Pos	Mukawa	
Munro	N.G.	03/08/1939	P	T↦	Letter	Greetings	Friend	Pos	Karuizawa	
Munro	N.G.	18/12/1939	P	T⇆, Chi	Letter	Greetings	Friend	Pos	Nibutani	
Munro	N.G.	19/03/1940	P	T↦	Letter	Evaporated Milk	Friend	Neg	Nibutani	
Munro	N.G.	29/03/1940	P	T↦	Letter	Treatment	Friend	Neu	Nibutani	
M. Kaizawa's Sons		29/03/1940	P	T⇆	Verbal	Treatment	Acquaintance	Neu	Nibutani?	
Nitani	Bunjiro	29/03/1940	P	T⇆	Letter	Treatment	Official	Neu	Nibutani	
Munro	N.G.	26/10/1940	P	T⇆, Chi	Letter	Gratitude, Shortage, Ainu Study	Friend	Neg	Nibutani	
Munro	N.G.	17/11/1941	P	T⇆	Letter	Gratitude, Whereabouts, Ainu Study	Friend	Neu	Nibutani	
Nitani	Bunjiro	17/11/1941	P	T⇆	Verbal	Whereabouts	Official	Neu	Piraotori	
Nitani	Ichitaro	17/11/1941	P	T⇆	Verbal	Whereabouts	Villager	Neu	Nibutani	

表２　マンローが投函した書簡に記載された基本情報（1/2）

Family Name	Given Names	Date of Doc	P / S / T	Information Flow	Letter / Verbal / Behavior	Topic(s)	Relationship or Position	Context (Pos / Neg / Neu)	Location (if known)	Notes
Tani	Kijiro	10/12/1936	P	M⇄	Letter	Medical Registration	Friend	Pos	Sapporo	
Chemist in Tokyo		10/12/1936	P	M⇄	Letter	Medicines	Dealer	Neu	Tokyo	
The Police		10/12/1936	P	M↦	Verbal	Medical Registration	Policeman	Neu	Nibutani	
The Doctor from Nina		10/12/1936	P	M↦	Verbal	Invitation	Doctor	Neg	Nina	
Kimura	Chiyo	10/12/1936	P	M⇄	Letter	Companion	Wife	Pos	Nibutani	
Ichibayashi	Ichiro	10/12/1936	S	Ta ↦M ; Ta⇄Ic	Letter	Medical, Religion	Official	Neu	Urakawa	Chief of General Affairs of Hidaka Shicho
Tani	Kijiro	25/12/1936	P	M⇄	Letter	Christmas Felicitation, Statement Requested	Friend	Pos	Sapporo	
Seligman	C. G.	25/12/1936	P	M⇄	Verbal	Anthropological Study	Professor	Pos	London	University of London / Professor
Local Patients		25/12/1936	S	M⇄	Behavior	Medical Help	Acquaintance	Neu	Nibutani	
Scientific Institution		25/12/1936	P	M←|	Behavior	Award	Foundation	Pos	London	
The Karuizawa Residents		25/12/1936	P	M←|	Letter	Go Back to Work	Acquaintance	Pos	Karuizawa	
Tani	Kijiro	16/01/1937	P	M⇄	Letter	Fire	Friend	Pos	Sapporo	
The Military–looking Man		16/01/1937	S	M←|	Behavior	Fire	Arsonist	Neg	Nibutani?	
Sasaki	Ichitaro	16/01/1937	P	M⇄	Behavior	Coal Crops	Villager	Pos	Nibutani	
Sasaki's son		16/01/1937	P	M⇄ ; Sa⇄Sa'	Behavior	Cart	Villager	Pos	Nibutani	
Tani	Kijiro	18/02/1937	P	M⇄	Letter	Coal	Friend	Pos	Sapporo	
Frankly		18/02/1937	P	M←|	Letter	The Times	Friend	Pos		
Tani	Kijiro	17/03/1937	p	M⇄	Letter	Coal	Friend	Pos	Sapporo	
Sasaki	Ichitaro	17/03/1937	P	M←|	Verbal	Coal	Villager	Pos	Nibutani	
Tani	Kijiro	23/04/1937	P	M⇄	Letter	Hochi Shimbun	Spouse	Pos	Sapporo	
Ichibayashi	Ichitaro	23/04/1937	P	M⇄	Behavior	Visit	Official	Pos	Urakawa	
Nakamura	Tadamitsu	23/04/1937	P	M←|	Behavior	Visit	Official	Neu	Sapporo	Director of General Affairs of Head Office
Keller	Helen	23/04/1937	S	M←|	Letter	Lessons	Celebrity	Pos		
Landor	A. H. Savage	23/04/1937	S	M↦	Letter	Ainu and Language	Author	Pos		
Batchelor	John	23/04/1937	S	M↦	Letter	Language	Missionary	Pos	Sapporo	
Tani	Kijiro	25/05/1937	P	M⇄	Letter	Asahi Shimbun, Medical Doctor, Butter	Friend	Pos	Sapporo	
Tani	Kijiro	29/05/1937	P	M⇄	Letter	Marriage	Friend	Pos	Sapporo	
Kimura	Chiyo	29/05/1937	S	M⇄	Behavior	Written Will	Wife	Pos	Nibutani	

Favre–Brandt	Adele	29/05/1937	P	M⇆	Behavior	Treatment	Wife	Neu	Vienna	
Freud	Sigmund	29/05/1937	T	Ad⇆Fr	Behavior	Treatment	Professor	Neu	Vienna	
Kuroda	Hikozo	29/05/1937	P	M↦	Verbal	Divorce	Friend	Neu	Nibutani	
Adele's Brother		29/05/1937	P	M⇆	Letter	Divorce	Brother in Law	Neu	Yokohama	
Governor of Hokkaido		29/05/1937	P	M↦	Verbal	Greeting	Governor	Neu	Sapporo	
Keller	Helen	29/05/1937	P	M↦	Verbal	Greeting	Celebrity	Neu		
Fleisher		29/05/1937	P	M⇆	Letter	Article	Friend	Neu	Tokyo	
Fleisher's Father		29/05/1937	P	M⇆	Letter	Article	Friend	Neu	Tokyo	
Tani	Kijiro	22/06/1937	P	M⇆	Letter	Visit	Friend	Pos	Sapporo	
Tani	Kijiro	27/06/1937	P	M⇆	Letter	Visiting Docho, Morrison, Practice	Friend	Neu	Sapporo	
Morrison	I. E. M.	27/06/1937	T/P	M⇆	Letter / Behavior	Leaving Hokudai	Acquaintance	Neg	Tokyo	
Morrison's Father	G. A.	27/06/1937	P	M⇆	Behavior	Roving Disposition	Fellow–student	Neu		
Arima	Eiji	27/06/1937	P	M↦ ; Ta↦	Letter	Correspondence	Professor	Neu	Sapporo	
Tani	Kijiro	11/07/1937	P	M⇆	Letter	Articles	Friend	Pos	Sapporo	
Nitani	Kunematsu	11/07/1937	P	M⇆ ; Chi⇆	Verbal	Ethnography	Informant	Pos	Nibutani	
Batchelor	Jhon	11/07/1937	S	M↦	Letter	Ainu Dictionary	Missionary	Neg	Sapporo	
Kimura	Chiyo	11/07/1937	P	Kur⇆	Verbal	Tohon	Wife	Pos	Nibutani	
Kuroda	Hikozo	11/07/1937	P	M⇆	Verbal	Marriage Registration	Friend	Pos	Nibutani	
The Lawyer		11/07/1937	P	M↦	Letter	Marriage Registration	Acquaintance	Neu	Sapporo	Lawyer
Tani	Kijiro	14/07/1937	P	M↦	Letter	3 Articles	Friend	Neu	Sapporo	
Several Ekashi		14/07/1937	P	M⇆	Verbal	Reference	Informant	Pos	Nibutani	
Onodera	Goichi	14/07/1937	P	M↦	Letter	Ainu Practice	Official	Neu	Sapporo	Manager of Social Section of H.G.
Stevens	David H.	14/07/1937	P	M⇆	Letter	Financial Help	Director	Pos	New York	The Director of the Humanity Section of the Rockfeller Foundation
Kimura	Chiyo	14/07/1937	P	M⇆	Letter	Health	Wife	Pos	Nibutani	
Servant		14/07/1937	P	M⇆	Behavior	Wound	Ainu Servant	Neg	Nibutani	
Nitani	Kunematsu	14/07/1937	P	M⇆	Verbal	House–work	Informant	Pos	Nibutani	
Nitani's Daughter		14/07/1937	P	M↤ ; Ni⇆Ni'	Behavior	House–work	Ainu	Neu	Nibutani	
Kuroda	Hikozo	14/07/1937	P	M⇆	Verbal	Marriage Registration	Friend	Pos	Nibutani	
The Lawyer		14/07/1937	S	M↦	Letter	Will	Lawyer	Neu	Sapporo	
Tani	Kijiro	20/07/1937	P	M↦	Letter	Photos	Friend	Neu	Sapporo	
Onodera	Goichi	20/07/1937	P	M⇆	Letter	Photos	Official	Neu	Sapporo	

表２　マンローが投函した書簡に記載された基本情報（2/2）

Family Name	Given Names	Date of Doc	P / S / T	Information Flow	Letter / Verbal / Behavior	Topic(s)	Relationship or Position	Context (Pos / Neg / Neu)	Location (if known)	Notes
Tani	Kijiro	05/08/1937	P	M⇄	Letter	Marriage, Article, Coal	Friend	Pos	Sapporo	
The Leverhulme Trust		05/08/1937	P	M⇄	Letter	Grant	Trust	Pos	London	
Kimura	Chiyo	05/08/1937	P	M⇄	Behavior	Marriage	Wife	Pos	Nibutani	
Murakami		05/08/1937	P	M⇄	Verbal	Coal	Villager	Neu	Nibutani	
Sasaki	Ichitaro	05/08/1937	S	Sa⇄Mu	Verbal	Coal	Villager	Neu	Nibutani	
M.J.R.	Adele	05/08/1937	P	M⇄	Verbal	Marriage	Ex–wife	Neu	Germany?	
Takabatake	Toku	05/08/1937	P	M⇄	Verbal	Marriage	Ex–wife	Neu	Japan	
Takabatake	Iris	05/08/1937	P	M⇄ ; Ad⇄	Verbal	Marriage	Daughter	Neu	Lyon	
Favre–Brandt	Adele	05/08/1937	P	M⇄	Verbal	Marriage	Ex–wife	Neg	Vienna	
Tani	Kijiro	23/10/1937	P	M⇄	Letter	Invitation	Friend	Pos	Sapporo	
Tani	Kijiro	22/12/1937	P	M⇄	Letter	Invitation	Friend	Pos	Sapporo	
Tanaka		22/12/1937	S	M⇄	Letter	Funeral Service	Sonkaigin	Neg	Piratori	
Tanaka's son		22/12/1938	S	M⊢→	Letter	Funeral Service	Acquaintance	Neg	Tokyo	
Tani	Kijiro	30/09/1938	P	M⇄	Letter	Cheese & Bacon	Friend	Pos	Nibutani	
Raymon		30/09/1938	P	Chi⊢→	Letter	Ordering	Shop	Neg	Hakodate	
Kimura	Chiyo	30/09/1938	P	M←⊣	Verbal	Cheese & Bacon	Wife	Neu	Nibutani	
Kuroda's Son		30/09/1938	P	M⇄	Verbal	Cheese & Bacon	Villager	Neu	Nibutani	
Tani	Kijiro	16/10/1938	P	M⇄	Letter	Cheese & Bacon, Rumor	Friend	Pos	Sapporo	
Kimura	Chiyo	16/10/1938	P	M←⊣	Verbal	Cheese & Bacon	Wife	Neu	Nibutani	
Batchelor	Jhon	16/10/1938	P	M⇄	Behavior	Medical Treatment, Ainu Dictionary	Missionary	Pos	Sapporo	
	Andrews	16/10/1938	P	M⇄	Behavior	Attendance	Ba's Niece	Pos	Sapporo	
Matsuzaki		16/10/1938	S	M⇄	Verbal	Spy Gossip	Daeler	Neg	Nibutani	
Several Relatives		16/10/1938	S	M⇄ ; Mat⊢→SR	Verbal	Spy Gossip	Ma's Relatives	Neg	Nukibetsu	
The Police		16/10/1938	P	M⇄	Verbal	Spy Gossip	Policeman	Pos	Piratori	
Nakajima		16/10/1938	P	M⇄	Letter	Spy Gossip	Doctor	Pos	Piratori	
Fukuchi	Kenji	16/10/1938	P	M⇄	Letter	Spy Gossip	Doctor	Pos	Piratori	
Karuizawa Residents		16/10/1938	P	M / Chi←⊣	Letter	Requests to Return	Acquaintance	Pos	Karuizawa	
Tani	Kijiro	02/01/1939	P	M⇄	Letter	Spy Gossip	Friend	Pos	Sapporo	
Kimura	Chiyo	02/01/1939	P	M←⊣	Verbal	Spy Gossip	Wife	Neu	Nibutani	
An Official of the Nitto Kozan		02/01/1939	S	M⇄	Verbal	Spy Gossip	Official	Neg	Mukawa, Piratori	An Official of Nito Kozan
The Manager		02/01/1939	P	M⇄ ; Man⊢→AO	Letter / Verbal	Spy Gossip	Manager	Pos	Piratori	
The Police		02/01/1939	P	M⊢→ ; Mat⊢→	Letter / Verbal	Spy Gossip	Policeman	Neu	Sapporo/Piratori	
Matsuzaki		02/01/1939	S	M⇄	Letter	Spy Gossip	Dealer	Neg	Nibutani	
Several Relatives		02/01/1939	S	Mat⊢→	Letter	Spy Gossip	Ma's Relatives	Neg	Nukibetsu	
Karuizawa Residents		02/01/1939	P	M / Chi←⊣	Letter	Requests to Return	Acquaintance	Pos	Karuizawa	
Tani	Kijiro	22/04/1939	P	M⊢→	Letter	Birthday, Sale	Friend	Pos	Sapporo	

The Karuizawa Committe		22/04/1939	P	M / Chi←|	Letter	Requests to Return	Committee	Pos	Karuizawa	
Arima	Eiji	22/04/1939	S	M|→	Letter	Birthday	Professor	Pos	Sapporo	
Takabeya	Fukuhei	22/04/1939	S	M|→	Letter	Birthday	Professor	Pos	Sapporo	
Shiga	Akira	22/04/1939	S	M|→	Letter	Birthday	Professor	Pos	Sapporo	
The Soncho of Piratori		22/04/1939	P	M⇄	Letter	Sale	Headman	Pos	Piratori	
Ichibayashi	Ichiro	22/04/1939	S	Ta|→ ; SP←|	Letter	Sale	Official	Pos	Urakawa	
Tani	Kijiro	30/05/1939	P	M⇄	Letter	Invitation, Sale	Friend	Pos	Sapporo	
Tani	Kijiro	06/06/1939	P	M⇄	Letter	Invitation	Friend	Pos	Sapporo	
Tani	Kijiro	20/08/1939	P	M⇄	Letter	Translation, Sale	Friend	Pos	Sapporo	
Saiki	Riichiro	20/08/1939	P/S	M⇄ ; Sa⇄Kon	Behavior / Verbal	Translation	Doctor	Pos	Kyoto	
The Soncho		20/08/1939	P	M⇄	Verbal	Sale	Headman	Neu	Piratori	
Tani	Kijiro	03/10/1939	P	M|→	Letter	Translation, Sale	Friend	Pos	Sapporo	
Prince Konoye		03/10/1939	S	Sa⇄	Letter	Translation	Prince	Pos	Tokyo	
The Sanatorium Committee		03/10/1939	P	M←|	Verbal	Rent	Committee	Pos	Karuizawa	
Tani	Kijiro	31/12/1939	P	M⇄	Letter	Paucity of Butter, Article	Friend	Pos	Sapporo	
The Shi Chocho		31/12/1939	P	M|→	Letter	Kerosene	Official	Pos	Urakawa	
Hidaka Mimpo		31/12/1939	S	M|→	Verbal	Article	Local Newspaper	Pos	Urakawa	
The Soncho		31/12/1939	S	ShC|→Son	Letter	Kerosene	Headman	Pos	Piratori	
A Dealer		31/12/1939	P	Son|→ ; M←|	Behavior	Kerosene	Dealer	Pos	Piratori	
A Geraman Gentleman		31/12/1939	P	M⇄	Verbal	Treatment	Acquaintance	Nue	Karuizawa?	
A GG's Son		31/12/1939	P	M⇄	Verbal	Treatment	Acquaintance	Nue	Karuizawa?	
Tani	Kijiro	13/03/1940	P	M|→	Letter	Evaporated Milk	Friend	Pos	Sapporo	
Tani	Kijiro	08/09/1940	P	M⇄	Letter	Work, Butter, Mortality	Friend	Pos	Sapporo	
A Child of 3 1/2 Years Old		08/09/1940	P	M⇄	Behavior	Operation	Patient	Neu	Karuizawa	Daughter of Headmaster of the German School
The Docho Experimental Farm		08/09/1940	P	M⇄	Letter	Butter	Farm	Neg	Tokachi	
Kimura	Chiyo	08/09/1940	P	M←| ; Ki|→Ta	Verbal	Butter	Wife	Pos	Karuizawa	
A Daughter of Kunematsu		08/09/1940	S / P	M←| ; M⇄	Letter / Verbal	Hospitalization	Villager	Pos	Sapporo	
A Daughter of Kunematsu		08/09/1940	S	Brothers⇄	Behav	Field Work	Villager	Neg	Sapporo	
Tani	Kijiro	28/09/1940	P	M|→	Letter	Return	Friend	Pos	Sapporo	
Tani	Kijiro	03/10/1940	P	M|→	Letter	Butter	Friend	Pos	Sapporo	
Kimura	Chiyo	03/10/1940	P	M|→	Behavior	A Strenuous Time	Wife	Pos	Nibutani	
The Committee of Karuizawa		03/10/1940	P	M⇄	Verbal	Requests to Return	Committee	Pos	Karuizawa	
Tani	Kijiro	11/12/1940	P	M|→	Letter	Butter	Friend	Neu	Sapporo	
The Dairy		11/12/1940	P	Ki←|	Letter	Butter	Dairy Farm	Neg		
Kimura	Chiyo	11/12/1940	P	M←|	Verbal	Butter	Wife	Neg	Nibutani	
Tani	Kijiro	14/05/1941	P	M⇄	Letter	Health, Request	Friend	Neu	Sapporo	
The karuizawa Committee		14/05/1941	P	M⇄	Letter	Unanimous Request to Return	Committee	Pos	Karuizawa	

Neg／Neu）（文脈）、Location（if known）（所在）、Notes（備考）の11項目である。基本的に書簡に使用されている言語（英語）に基づいて作表（表1、表2）した。

異なる書簡で何度も登場する人物はそれだけマンローとのかかわりが高いと想定することができるので、重複を恐れずに書簡に登場するたびに取り上げて記録した。

「Date of Documents」は、書簡の右上に記載された作成日または投函日である。

「Family Name」と「Given Name」は、まず書簡の書き手や受取人にかかわる人物の姓名である。しかしどちらもファミリーネームしか記載していない場合が圧倒的に多く、特定の個人の同定に結びつかなかったものもある。またSonchoなど役職名だけで書き表したり、Several Relativesなどとされて名前の記載がないケースも少なくない。例えば、Shakai-kaは、マンローがアイヌに関する英文のレポートを送って雑誌に掲載してもらおうとしていた北海道庁の社会課という部署のことである。当時の担当者はOnoderaであった。また、アイヌ名称については日本名の表記や単にEkashiやServantなどの表記も多い。TAH書簡とRAI・NMS書簡との対比で、人物の特定が可能になるケースもいくつかあった。

「P／S／T」は情報の伝達の経由特性を示すための概念であり、ネットワークがどのようにノード（「行為者」）間の関係を形成していくかを表すものである。ある情報がマンローなど特定のノードから特定のノードに渡るとき（あるいはその逆に特定のノードからマンローなどの特定のノードに渡るとき）に、直接なのか（Primary）、第3者を通じてなのか（Secondary）、それとも第3者が別の個人から獲得した情報をさらに転送するのか（Tertiary）に基づいて区分している。

「Information Flow」はある人物から別の人物に情報が流れた場合に方向を持つ矢印で表したものである。

「Letter / Verbal/ Behavior」は情報の授受がどのような手段で行われたかを表したものである。書簡、言語および行動の3つの形態を想定しているが、推測で判断したものもある。

「P / S / T」、「Information Flow」、「Letter / Verbal/ Behavior」の関係を具体例に即して説明すると、一九三九年八月二十日付のマンローから谷へ宛てた書簡に関しては次のようになる。すなわち、この書簡のなかで、京都市在住のDr. Saikiこと佐伯理一郎博士が軽井沢のマンローを訪れ、考古学と人類学に関する著書の日本語訳を依頼したことがトピックになっている。佐伯はマンローに、佐伯と親交のある近衛文麿公（Prince Konoye）にこの件を相談したところ、自分の影響力を使ってかまわないとの温かい申し出を受けたことを述べている。さて、この場合の情報の流れであるが、まずマンローから谷へ宛てた書簡であることから、マンローから谷へ直接的な情報が流れたとカウントでき、しかもその伝達方法は書簡によるものである。続いて佐伯がマンローに直接会って著書の翻訳を依頼したことから、佐伯からマンローに情報が流れたと見なすことができ、その伝達方式は会見という行動によるものである。また書簡には記述はないが、マンローがその依頼に対し、何らかの返答をしていることが十分に考えられるので、マンローからも佐伯にある種の情報の流れがあったことを推測することできる。3番目に佐伯の発言から、マンローの会見に先立って佐伯が近衛公と会見して翻訳問題を議論したことを類推できるので、佐伯と近衛公の間に双方向の情報の流れがあったと判断できる。しかしこれはマンローが直接見たわけではなく、伝聞によるものなので、表中では「P / S / T」は二次的（Secondary）な区分

に該当するSを当てはめている。

「Topics」は手紙のなかで触れている話題を少数のキーワードで表現したものであるが、長文の手紙では話題が多岐にわたり煩雑になるので、代表的なもののみを取り上げている。

また、「Relationship or Position」はあくまでもマンローが表記しているマンローとの関係をそのまま抽出したものであり、主観的なものである。

「Context」はマンローがその人物を好意的、中立的、批判的に述べているかどうかに応じ、Positive、Neutral、Negativeで区分した。

「Location」はその人物の主な活動の中心地であるが、不明な場合は推測している。マンローの住家を訪れるなど移動した場合にもその人物が本来活動している土地を選択した。

「Notes」は上記の各項目以外でとくに必要だと判断されることがあれば記載した。

これらの項目をもとに、マンローと書簡に登場する人物との間の情報の流れと方向性がわかる部分に基づいたデータをEgo Networks分析用の隣接行列（「ソシオマトリクス」）に変換した（表3、表4）。これをSNAの専用分析ソフトウェアUcinet 6を使ってDファイルに書き換えた上で、グラフ描画ソフトNetDrawで、社会ネットワーク用のグラフを作成するとともに、密度、クリーク、中心性、構造的空隙の分析を行った。

Ego NetworksはSNAの分析手法の1つであり、中心人物と中心人物が直接結びついている人物（ノード、nodes）、およびその紐帯（ties）から構成されるネットワークである。マンローが各人に投函した書簡が圧倒的に多いことを考慮し、マンローが中心人物となるネットワークを表現した。エゴネット

ワークの特徴としては次の2点が指摘されている[16]。

（1）人は、社会階層、年齢、性別、人種、政治思想などの基本的な属性が自己と類似している人と最も強い関係を築く。

（2）ネットワーク内の多様性が高まれば、ネットワーク内にエゴが必要とする何かを提供する人物がいる確率が高まる。

表3　谷書簡のソシオマトリクス

	Tani	Munro	Ishikawa	Batchelor	Chiyo	Nitani B.	Ichihayashi	Expert	Sasaki	Onodera	Keller	Lawyer	Shakai-ka	Kuroda H.	Tani's Bro.	Pete	Kaizawa M's Sons	Nitani I.	Tani's Wife
Tani	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
Munro	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1
Ishikawa	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
Batchelor	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
Chiyo	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1
Nitani B.	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
Ichihayashi	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Expert	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Sasaki	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Onodera	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Keller	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Lawyer	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Shakai-ka	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Kuroda H.	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tani's Bro.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pete	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Kaizawa M's Sons	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nitani I.	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tani's Wife	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0

Servant	K's Dau.	Onodera	Leverhulme	Murakami	Toku	Iris	Adele	Tanaka	Tanaka's Son	Raymon	Kuroda's Son	Andrews	Matsuzaki	Sev. Relatives	Fukuchi	Official of NK	Manager of NK	Karuizawa Com.	Takabeya	Shiga	Soncho	Saiki	Konoye	Shi Chocho	Hidaka M	Dealer	GG	GG's Son	DEF	K's Sons	MJR Adele	Nakajima
1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 4　マンロー書簡のソシオマトリクス

	Mun	Tani	Chemist	Police	Chiyo	Ichibayashi	Seligman	Local Patients	Karuizawa Res.	MLM	Sasaki	Sasaki's Son	Frankly	Nakamura	Keller	Landor	Batchelor	Freud	Kuroda	Adele's Bro.	Governor	Fleisher	Fleisher's Fa.	Morrison	Morrison's Fa.	Arima	Kunematsu	Lawyer	Sev. Ekashi	Stevens
Munro	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Tani	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
Chemist	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Police	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Chiyo	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
Ichibayashi	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Seligman	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Local Patients	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Karuizawa Res.	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MLM	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Sasaki	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Sasaki's Son	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Frankly	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nakamura	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Keller	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Landor	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Batchelor	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Freud	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Kuroda	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Adele's Bro.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Governor	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Fleisher	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
Fleisher's Fa.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
Morrison	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
Morrison's Fa.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
Arima	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Kunematsu	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
Lawyer	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Sev. Ekashi	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
Stevens	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Servant	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
K's Dau.	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
Onodera	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Leverhulme	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Murakami	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Toku	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Iris	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Adele	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tanaka	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tanaka's Son	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Raymon	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Kuroda's Son	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Andrews	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Matsuzaki	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Sev. Relatives	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Fukuchi	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Official of NK	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Manager of NK	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Karuizawa Com.	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Takabeya	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Shiga	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Soncho	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Saiki	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Konoye	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Shi Chocho	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Hidaka M	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Dealer	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
GG	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
GG's Son	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DEF	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
K's Sons	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
MJR Adele	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nakajima	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4　社会ネットワークの分析と検討

一九三六年九月十一日から一九四一年十一月十七日までの間に、谷が投函した書簡に基づく谷を中心とする社会ネットワーク図と、一九三六年十二月十日から一九四一年五月十四日までの間に、マンローが投函した書簡に基づくマンローを中心とする社会ネットワーク図を提示する（図1、図2）。これらの図のマンローを含む人物名は書簡のオリジナル表記を尊重してアルファベットで書き表している。なお、氏名の必ずしも明らかでない人物としては次のような人々がいる。Chemistはマンローに医薬品を納入した東京の薬剤師を示し、Policeは文脈により平取村や札幌の警察署員を、Local Patientsはマンローが診察をした二風谷周辺の患者（アイヌと和人双方が含まれる）を指す。MLMはマンローの借家に放火した犯人だとマンローが考えていた「兵隊らしく見える」人物を、Lawyerはマンローの離婚手続きを進めるために谷が紹介した弁護士を、Several Ekashiはマンローがアイヌ研究を行う際に頼りにした複数のインフォーマントを、K's DaughterとK's Sonsはいずれも Kunematsu（二谷国松）の子どもを指している。GGに関しては、名は記していないので不明であるが、あるドイツ人の紳士のことで、自分の息子を療養のためにマンローの二風谷の自宅に滞在させようとしていた。姓が同一の場合は、名のイニシャルや親族関係を示すことで社会ネットワーク図のノードの表示を簡略化して描いている。詳細は表1、2と照らし合わせていただきたい。

なお、社会ネットワーク図を理解しやすくするために、両図ともに自治体首長と公務員のノードのラベルは四角形とし、アイヌ民族はダイヤモンド型、商店・取引先・会社は下向きの三角形、それ以外の

人物は2個の三角形の組合せで表現した。図2のLoacl Patientsは二風谷周囲のアイヌだけでなく、和人の患者も含まれるが、当時の二風谷地区の人口構成では、アイヌの割合が高いのでアイヌのラベルを使用している。さらにマンローのネットワーク図ではマンローが、谷のネットワーク図では谷が直接連結していないノードは上向きの三角型で表している。

Servantはマンローの家事手伝いをした数人のアイヌ女性のうちの1人を指し、Leverhulmeは学術研究に資金援助をする英国の財団であり、Raymonは特定の人物を指すのではなく、マンローが愛用した食肉加工業のカール・レイモン商会を、Several Relativesはマンローの元大家で商店経営者Mの親戚筋を、Official of NKはゴシップネタを流した日東鉱山の職員を、Manager of NKはマンローが抗議文を送った日東鉱山の責任者を表す。このほか、Karuizawa ResidentsとKaruizawa Committeeはマンローが夏の間に診療活動を通じてかかわりをもっていた。Karuizawa Committeeは同じくマンロー書簡の原文にあるThe Sanatorium Committeeと同一組織であろう。The Sonchoは当時その地位にいた石川平取村村長を指す。The Shi Chochoは日高支庁長を指す。Hidaka Mimpoは当時浦河町にあった地方新聞社であり、マンローに関する記事を掲載した。

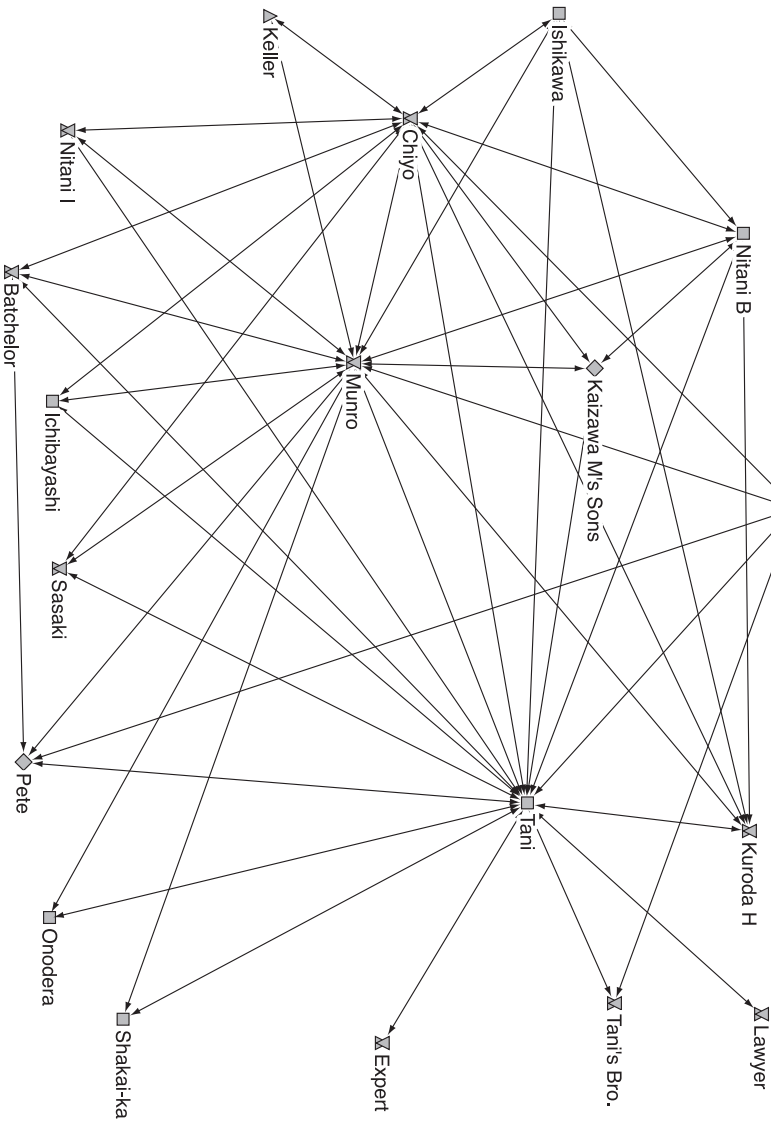
なお、Kimura Chiyoは前妻Favre-Brandt Adeleとの離婚手続きが済み、入籍の手続きを完了してマンローの妻となった一九三七年六月三十日以降はMunro Chiyoと呼称すべきであるが、本稿ではとくに断らない限り、姓ではなく単にChiyoと表記する。

谷のネットワークグラフ（図1）

谷のネットワークの分析は、TAHの20通の書簡に依拠しており、19人の登場人物（ノード）から形成されるネットワークで、のちに述べるマンローのものより小型である。もちろん、谷の社会ネットワークがこの図のもののみだったといっているわけではなく、別の人間関係も有していたのは当然であるが、たまたま書簡から復元できる特定時期のマンローにかかわる社会ネットワークであると見なすことができる。Tani、Munro、Chiyoに多数の紐帯が集中している。このほか5本以上の紐帯を有するノードは、Tani's Wife、Kuroda、Nitani B.、Ishikawaである。第3者を経由しないと直接マンローにつながらない人物はLawyer、Tani's Bro.、Expertの3人である。

谷のネットワークの特徴は2つ指摘できる。1つは自治体首長と公務員が5人加わっており、全体の4分の1以上を占めていることである。もう1つはTaniが妻とともにMunro家を訪問していることに表れているように、家族ぐるみの交際が行われていたことである。おそらくこうしたことが関係しているのだろうが、北海道庁、日高支庁、平取村を結ぶ行政職員のネットワークがマンローの生活の質を改善する上で役立ったことである。知事の許可を受けずに医療行為を行っているマンローを批判する噂を聞きおよんだ平取村役場職員のNitani B.（二谷文次郎）がすぐに谷へ手紙を書いてそのような規則があるのならすぐにマンローに助言をしてほしいと要請している。手紙をもらった谷がマンローに書類の作成方法を丁寧に示すといった行為に端的に見てとれる（一九三六年十一月十日付の谷からマンローへの手紙）。もちろん北海道とその出先機関、および市町村間の力関係も作用しているのだろうが、いかにもお役所的といったような対応ではない。Ichibayashi（日高支庁総務課長）とNakamura（北海道庁総

図1　谷の社会ネットワーク図



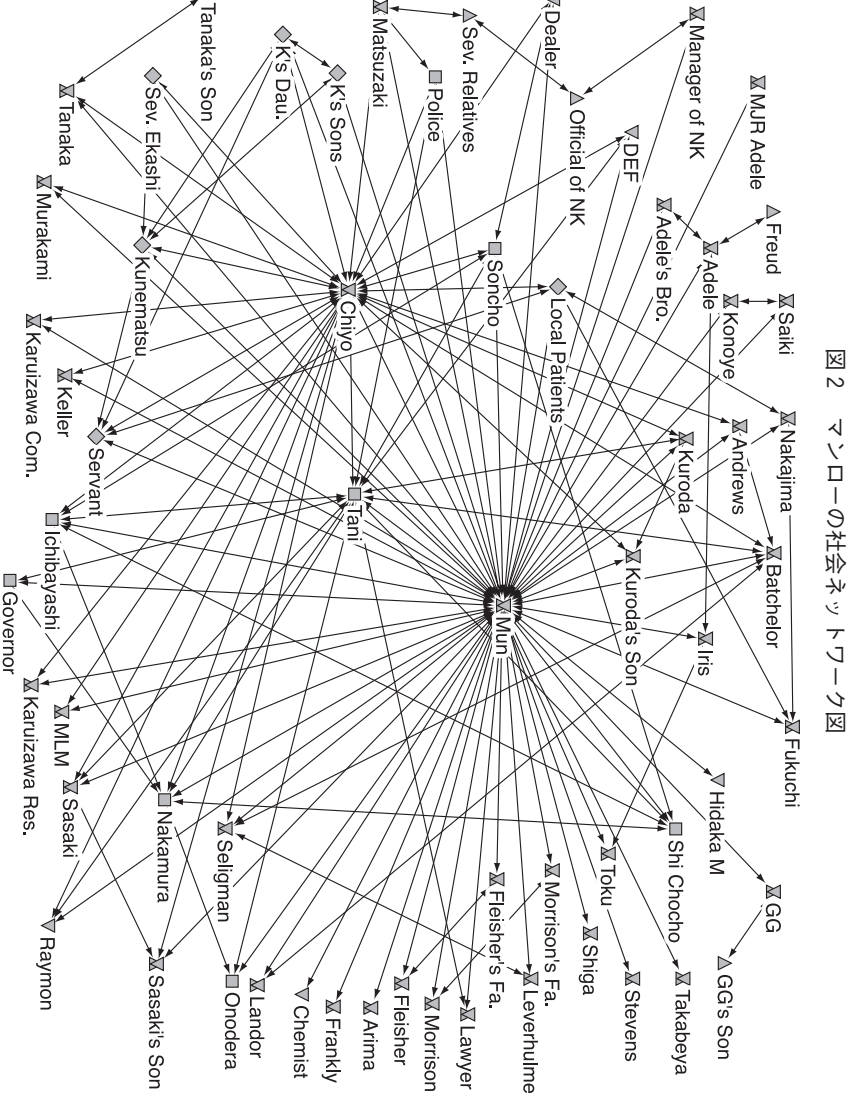
務部長）が連れ立ってマンロー家を訪問したことを謝する手紙がマンローから谷へ送られていることでわかる（一九三七年四月七日付書簡）。もともと、このIchibayashiは谷がマンローに紹介した人物である。一方で、谷がNitani B.からの要請を受けてKaizawa M.の息子たちに紹介状を渡し、マンローによる治療を受けさせたこと（一九四〇年三月二十九日付の谷からマンロー宛紹介状）などから、谷とその職場ネットワークと、マンロー間の働きかけは決して一方通行ではなく、双方向のものだったことがわかる。

マンローのネットワークグラフ（図2）

63人の人物から構成されるより大型で複雑なネットワークである。多くの書簡が残っていることから晩年のマンローの生活をある程度反映していると考えられる。J. BatchelorやPeteなど谷のネットワークと共通する人物も多数いるが、マンローに好意的で陰ながら支え、マンローと接触する機会が多かったはずのNitani B.がマンローの社会ネットワークに登場しないことの理由はよくわからない。十分身近であったはずであるが、たまたま記述する機会がなかったのかもしれない。マンローは書簡のなかで谷夫人についてたびたび言及しているが、これは手紙の末尾の形式的な記述であるために、ネットワーク図には加えてはいない。マンローは谷宛ての書簡のなかで、自分に対して害悪を及ぼす可能性のある人物について数度言及している。Official of NKもその1人であるが、それを取り巻く人間関係もこの図でははっきり表現されている。

マンローのネットワーク図で、ハブを構成している特定人物が消えるとマンローとの関係が途絶えて

図2　マンローの社会ネットワーク図



しまう遠距離の人物は、5人と少なく、マンローのネットワークにおける直接結合の割合が高い傾向を示している。Adele 元夫人の治療に当たった Frued、あるドイツ人紳士の子息 GG's Son、平取村村会議員 Tanaka の子息 Tanaka's Son、元大家 Matsuzaki の親類 Matsuzaki's Relatives、日東鉱山の職員 Official of NK がそれらの人物である。多くの次数を有する Chiyo と Tani を介さないとマンローとの接点が消える人物も見あたらず、人間関係の重複が多いことが特徴的なネットワークとなっている。

二風谷を中心に活動し、関心も狭い地域のアイヌ文化に集中する時期ではあるが、Seligman や Stevens を通じ、海外にもネットワークの窓が開かれていたことは注目に値する。こうした人物を通じ、アイヌ研究を推進するための助言を受けたり、研究資金を調達しているからである。日本側でも Takabeya は、岩波書店がマンローのために1千円の感謝金を支給するためのキーパーソンとして機能している[17]。Keller はヘレン・ケラーのことであるが、来日した女史にわざわざ面会を申し込んで実現させていることも、マンローの積極的な交流意欲を示すものとしてこの図には表現されている。アイヌ研究の成果を積極的に投稿する姿勢を見せるが、その過程で交流のあった Japan Advertiser 誌の Fleisher 父子との交流の様子もこの図からは窺える。

アイヌとの接し方に関しては、普段の患者に含まれるアイヌの他、研究上の接点があり、書簡のなかで氏名は明らかにしていないが、数名の Ekashi、マンロー邸のお手伝い（Servant）、インフォーマントの Kunematsu とその子どもたちがおり、これらの人物と Chiyo の間にも同様に紐帯が存在している。調査を支えた Chiyo の内助の功を容易に推察することが可能である。

密度の分析

まず手始めに、それぞれのネットワーク内の密度の分析を行った。ネットワーク密度は実際に存在する関係（紐帯）数を理論的な関係の最大数で除して導かれる数値で、1が最大値となる。ネットワーク内の人々が互いに有している関係がどのくらい緊密であるかを表す指標であり、谷を中心とする社会ネットワークの数値は0．2749（標準偏差0．4464）と非常に高密度であるが、マンローのそれは0．0612（標準偏差0．2397）と低く、その差は歴然としている。密度が高いネットワーク内では、直接的な関係が人々を相互に結びつけているために、そのネットワークに所属している人々は非常に均一的な価値観を保ち、類似した行動をとりがちであるのに対し、密度の低いネットワーク内では、価値や規範に多様性が存在し、その行動も多様になるという一般的な特性がある[18]。現存する書簡だけでネットワーク関係が存在しなかったことを証明することはできないが、谷のネットワークに属する人々は、マンローに種々のアドヴァイスをするためや、マンローの要望に応じて働きかけをした人たちが中心となっているために、高い数値を示しているものと考えられる。国内外の様々な人たちと通信していた証拠が多数存在し、時期的にもTAHに類似するRAI所蔵書簡コレクションの密度0．0370よりもはるかに高い数値になっている。おそらく、離婚、医療免許の取得、デマの制圧、生活物資の確保、住居・家財の売却など、日常的な課題を処理する上でやりとりがあった人たちとの関係が主になっていることが、数値を上げる結果につながっているのだろう。これについては、北海道に移住する前のマンローが、UK内の博物館職員との間で先史時代に関する日本の文物コレクションを送ることが共通の話題となっていた書簡を多く有するNMSコレクションの密度0．0998に次ぐ数字となっている。

クリークの抽出

谷とマンローそれぞれのネットワーク内で、クリークがいくつ存在するかを測定した。クリークとはネットワーク内の構成要素（ノード）同士が直接結合関係にあるサブグループのまとまりを指し、少なくても一定期間同じような目的を共有したり、連携を維持する集団と考えられている。谷を中心とするネットワークでは、3人以上のノードを含むクリークは14件、一方マンローを中心とするネットワークでは、3人以上の人物から形成されるクリークが34件見つかった。それらは以下の通りである。

①谷の社会ネットワーク

1：Tani, Munro, Ishikawa, Chiyo, Nitani B.
2：Tani, Munro, Ishikawa, Chiyo, Kuroda H.
3：Tani, Munro, Batchelor, Chiyo
4：Tani, Munro, Chiyo, Ichibayashi
5：Tani, Munro, Chiyo, Nitani B., Kaizawa M's Sons
6：Tani, Munro, Chiyo, Nitani I.
7：Tani, Munro, Chiyo, Tani's Wife
8：Tani, Munro, Onodera
9：Tani, Munro, Shakai-ka
10：Tani, Munro, Batchelor, Pete

11：Tani, Munro, Pete, Tani's Wife
12：Tani, Tani's Bro., Tani's Wife
13：Munro, Chiyo, Sasaki
14：Munro, Chiyo, Keller

Tani のネットワークについては、4人以上のクリーク9個についてのみ言及するとすれば、Tani と Munro の組み合わせがすべてにおいて登場するのは当然としても、Chiyo がそれに次ぐ7回、Ishikawa（平取村長）、Batchelor、Nitani B.（二谷文次郎）、Pete（Batchelor の弟子の辺泥五郎）、Tani's Wife がそれぞれ2回ずつ登場する。Ishikawa 村長と平取村役場の職員だった Nitani は Munro の要望をかなえようと種々世話をした人物であり、Tani によれば、スパイのデマがとびかったときにも Nitani が Munro をかばっていたというが、興味深いことに Munro の書簡には登場しない人物である。Pete は治療の件で Tani 夫妻の札幌の自宅に逗留しており、Batchelor は Tani と面識があり、Munro との書簡のなかでたびたび話題として取り上げられている。上記の人物が複数のクリークの構成メンバーを兼ねていることが注目される。これらの人物以外に複数のクリークにまたがって登場する人物はいない。これはそのときどきの関心事をクリーク内の人物と共有したことを物語っている。

②マンローの社会ネットワーク

1：Munro, Tani, Chiyo, Ichibayashi

2 : Munro, Tani, Chiyo, Batchelor

3 : Munro, Tani, Chiyo, Kuroda

4 : Munro, Tani, Chiyo, DEF

5 : Munro, Chiyo, Local Patients

6 : Munro, Chiyo, Karuizawa Res.

7 : Munro, Chiyo, MLM

8 : Munro, Chiyo, Sasaki, Sasaki's Son

9 : Munro, Chiyo, Ichibayashi, Nakamura

10 : Munro, Chiyo, Keller

11 : Munro, Chiyo, Sev. Ekashi

12 : Munro, Chiyo, Servant, K's Dau.

13 : Munro, Chiyo, Raymon

14 : Munro, Chiyo, Batchelor, Andrews

15 : Munro, Chiyo, Karuizawa Com.

16 : Munro, Chiyo, Ichibayashi, Soncho

17 : Munro, Chiyo, Dealer

18 : Munro, Tani, Police

19 : Munro, Police, Matsuzaki

20 : Munro, Seligman, Leverhulme
21 : Munro, Landor, Batchelor
22 : Munro, Adele's Bro., Adele
23 : Munro, Tani, Governor
24 : Munro, Fleisher, Fleisher's Fa.
25 : Munro, Morrison, Morrison's Fa.
26 : Munro, Kunematsu, Servant, K's Dau.
27 : Munro, Kunematsu, K's Dau., K's Sons
28 : Munro, Kunematsu, Sev. Ekashi
29 : Munro, Tani, Lawyer
30 : Munro, Toku, Iris
31 : Munro, Iris, Adele
32 : Munro, Kuroda, Kuroda's Son
33 : Munro, Fukuchi, Nakajima,
34 : Munro, Saiki, Konoye

Munro のネットワークでは、3人以上のクリークが34件、そのうち4人以上のものは11件存在する。Chiyo、Tani が重複して登場するトップ2であるが、Kunematsu、Batchelor も複数のクリークに登

場している。

特定の食料品など、日常生活で必要な商品の購入をめぐって話題を共有したのが、4、13、17のクリークである。とくに17は戦時中で物資の販売統制が強まるなか、マンローの困窮を知った日高支庁が良質の灯油をマンローに販売する許可を平取村長経由で与え、マンローが業者から実際に灯油を入手したことを示している（一九三九年十二月三十一日付谷宛て書簡）。警察沙汰になった18、19、離婚問題を協議した3、29や、怪我や治療にかかわる5、12、14、26、27、家の売却をめぐって会見が実現した1、16、炭鉱の発見を村の振興に結びつけようとマンローが奔走した8など、マンローの村の生活に直接関係するものが多い。一九三二年のマンロー仮寓の火災の原因は不明であるが、マンローはチョとともに生涯放火説を主張しつづけた[19]。このマンローとチョが目撃したと主張する放火犯がMLMであり、7のクリークに相当する。一方で道外（国外）の人々との接点をあらわすクリークは6、15、20、21、22、24、25、30、31、34の10件であり、全体の3分の1以下である。このことからマンローのネットワークは二風谷の生活との関連がより強いと見なすことができよう。

中心性のスコア（表5、表6）

次にネットワークにおける階層構造をモデル化するための中心性分析の結果を、谷とマンローのネットワークのそれぞれで示す。分析値は、中心性を導きだす3種類の代表的なモデル、次数中心性（Degree Centrality）、近接中心性（Closeness Centrality）、媒介中心性（Betweenness Centrality）を使用しており、数値が高いほど高い中心性を占めていることを表す。

中心性は中心概念に基づいて中心の度合いを尺度化したものであり、中心は「権力」との関連が強いために、その分析は現実の政治、経済の様々な組織研究に応用されるなど、きわめて実践志向が強い研究分野となっており、研究の蓄積もある[20]。

次数中心性はノードのもつ紐帯の数で中心性をはかるオーソドックスな指標である。出次数が多ければ、そのグループのなかで最も多くの人を信頼している人物の中心性が高くなり、入次数が多ければ、グループ内で最も多くの人に信頼されている人物の中心性が高くなる。近接中心性は、あるノードがグループ内の他のすべてのノードに対し、経由しなければならない紐帯の数の点でどの程度近縁なのかを算出する指標である[21]。媒介中心性は、ネットワーク内の仲介者（ブローカー）のような存在を想定し、そのような人物を介在させなければ情報が伝達されないような「キー」となる人物がいた場合に最も中心性が高くなる指標である。あるノードが他のノードの情報の流れをどれだけコントロールできているかという指標でもある[22]。

表5　谷の社会ネットワークの中心性スコア

	Degree	Rank	Closeness	Rank	BetwN	Rank
Tani	94.444	1	94.737	1	46.187	1
Munro	83.333	2	85.714	2	22.985	2
Ishikawa	27.778	5	58.065	5	0	8
Batchelor	22.222	8	56.25	8	0.163	6
Chiyo	66.667	3	75	3	11.057	3
Nitani B.	33.333	4	60	4	0.327	5
Ichibayashi	16.667	11	54.545	11	0	8
Expert	5.556	18	50	17	0	8
Sasaki	16.667	11	54.545	11	0	8
Onodera	11.111	14	52.941	14	0	8
Keller	11.111	14	48.649	19	0	8
Lawyer	5.556	18	50	17	0	8
Shakai–ka	11.111	14	52.941	14	0	8
Kuroda H.	27.778	5	58.065	5	0	8
Tani's Bro.	11.111	14	51.429	16	0	8
Pete	22.222	8	56.25	8	0.163	6
Kaizawa M's Sons	22.222	8	56.25	8	0	8
Nitani I.	16.667	11	54.545	11	0	8
Tani's Wife	27.778	5	58.065	5	1.471	4

中心性の高得点人物を見てみると、谷のネットワークではトップ3位まではどのモデルの分析値も同じで、安定的な結果を示している。4位では Nitani B. を示すものと Tani's Wife を示すものに分かれている。次数中心性と近接中心性は Ishikawa（平取村長）と Tani's Wife をともに5位にしているが、媒介中心性だけは Nitani B.

表6　マンローの社会ネットワークの中心性スコア

	Degree	Rank	Closeness	Rank	BetwN	Rank
Munro	91.935	1	92.537	1	83.381	1
Tani	24.194	3	54.386	3	1.599	8
Chemist	1.613	53	48.438	51	0	25
Police	6.452	13	50	10	0.035	18
Chiyo	45.161	2	62.626	2	9.653	2
Ichibayashi	9.677	5	50.407	5	0.021	21
Seligman	6.452	13	49.6	16	0.053	15
Local Patients	8.065	9	50	10	0.106	11
Karuizawa Res.	3.226	33	48.819	36	0	25
MLM	3.226	33	48.819	36	0	25
Sasaki	6.452	13	49.6	16	0.018	22
Sasaki's Son	4.839	19	49.206	22	0	25
Frankly	1.613	53	48.438	51	0	25
Nakamura	11.29	4	50.82	4	0.134	10
Keller	3.226	33	48.819	36	0	25
Landor	3.226	33	48.819	36	0	25
Batchelor	9.677	5	50.407	5	0.159	9
Freud	1.613	53	33.514	61	0	25
Kuroda	6.452	13	49.6	16	0.018	22
Adele's Bro.	3.226	33	49.206	22	0	25
Governor	4.839	19	49.206	22	0	25
Fleisher	3.226	33	48.819	36	0	25
Fleisher's Fa.	3.226	33	48.819	36	0	25
Morrison	3.226	33	48.819	36	0	25
Morrison's Fa.	3.226	33	48.819	36	0	25
Arima	1.613	53	48.438	51	0	25
Kunematsu	9.677	5	50.407	5	0.097	13
Lawyer	3.226	33	48.819	36	0	25
Sev. Ekashi	4.839	19	49.206	22	0	25
Stevens	1.613	53	48.438	51	0	25
Servant	8.065	9	50	10	0.035	18
K's Dau.	8.065	9	50	10	0.035	18
Onodera	4.839	19	49.206	22	0	25
Leverhulme	3.226	33	48.819	36	0	25
Murakami	3.226	33	48.819	36	0	25
Toku	3.226	33	48.819	36	0	25
Iris	4.839	19	49.6	16	0.053	15
Adele	6.452	13	50	10	3.252	3
Tanaka	4.839	19	49.6	16	3.226	4
Tanaka's Son	1.613	53	33.333	62	0	25
Raymon	4.839	19	49.206	22	0	25
Kuroda's Son	4.839	19	49.206	22	0	25
Andrews	4.839	19	49.206	22	0	25
Matsuzaki	6.452	13	50.407	5	3.173	6
Sev. Relatives	3.226	33	34.254	59	0.106	11
Fukuchi	4.839	19	49.206	22	0	25
Official of NK	3.226	33	33.88	60	0.053	15
Manager of NK	3.226	33	49.6	16	3.067	7
Karuizawa Com.	3.226	33	48.819	36	0	25
Takabeya	1.613	53	48.438	51	0	25
Shiga	1.613	53	48.438	51	0	25
Soncho	9.677	5	50.407	5	0.072	14
Saiki	3.226	33	48.819	36	0	25
Konoye	3.226	33	48.819	36	0	25
Shi Chocho	8.065	9	50	10	0.011	24
Hidaka M.	1.613	53	48.438	51	0	25
Dealer	4.839	19	49.206	22	0	25
GG	3.226	33	49.206	22	3.226	4
GG's Son	1.613	53	33.155	63	0	25
DEF	4.839	19	49.206	22	0	25
K's Sons	4.839	19	49.206	22	0	25
MJR Adele	1.613	53	48.438	51	0	25
Nakajima	4.839	19	49.206	22	0	25

を5位にBatchelorをそれに準ずる順位にしている。谷のネットワーク内でのNitani B.の存在の重要性が理解できる。

マンローのネットワークでは、2位までは同じだが、3位はTaniを推すものと8位にしているものとがあって相違が著しい。各モデル手法ごとに前期よりも変動の幅が大きくなる傾向がある。すべての分析値で10位以内に入った人物は、Munro、Chiyo、Tani以外では、Nakamura（北海道庁総務部長）とBatchelorの2名しかおらず、アイヌは含まれていない。Batchelorは図2でも出次・入次数がともに多いが、中心性の点でも影響力の強さを示している。マンローの書簡のなかで、明らかに肯定的なものば

かりではないが、Batchelor を意識したものが多く、マンローのネットワークにおける Batchelor の存在感の高さを印象づける。

アイヌでは、Kunematsu と Kunematsu の娘、すなわち K's Dau. およびお手伝いの Servant が3つの中心性のスコアが比較的高い。日々の診療を通じマンローと接点のあった患者も割とスコアが高い。

媒介中心性がそれぞれ3位と4位だった Adele と Tanaka は、いずれもこの2人を経由しないとマンローがアクセスできない人物（Freud と Tanaka's Son）とつながっている点で数値が高くなったのであろう。Matsuzaki は近接中心性で5位、媒介中心性で6位と健闘しているが、次数中心性ではそれほど高くランクされていない。

行政側の人物として Nakamura と同様にマンローの実生活にかかわったはずの Ichibayashi、Soncho、Shi Chocho は評価が分かれたのは興味深い。逆にどの指標も安定した評価を示した人物としては Seligman がいる。

一九三九年一月二日付の谷宛て書簡で、自分がスパイであるとのうわさを流したとマンローが信じ、憤激させた人物（Official of NK）とそれを扇動したとされる複数人物（Sev. Relatives）は3つの中心性モデルで順位の変動が激しかった。マンローの抗議を受け、部下の従業員に注意する約束をした Manager of NK（一九三九年一月二日付谷宛て書簡）は次数中心性では33位だが、近接中心性では16位、媒介中心性では7位と上位に位置し、マンローの意向を伝える役割を果たそうとしたことが結果にも表れていると考えられる。

また、マンローの友人でマンローが自身の誕生日に招待しようと思うほどの仲だった（一九三九年四

月二十二日付谷宛て書簡）日本人教授3名Arima、Takabeya、Shigaの順位はおしなべて低い。

構造的空隙（表7、表8）

エゴを含む3者関係（トライアド）を考えるときに、3点間が紐帯で完全に結合している場合、3点はその集団の規範に拘束されるが、エゴを除く2点間に紐帯が存在しない場合、エゴは他の2者間の競争や拮抗を誘導して利用できる。このように、他の2者間の紐帯の不在はエゴが利用できる「構造的空隙」として社会ネットワーク研究者に注目されてきた。構造的空隙のない完全な3者関係はそれぞれ2つの相手に伸びる2本の紐帯を維持する必要に迫られる。なぜならば、もしエゴが誰かとの間の紐帯を消しさると、エゴの周囲に構造的空隙が生じ、相手もしくは第3者を有利にしてしまうからである。つまり構造的空隙が少なければ、ネットワークから受ける制約が大きくなってしまう傾向にある(23)。

構造的空隙に関する研究から開発された3つの指標を選んで今回の分析に使用する。これらはネットワーク内で関係が重複している相手のために時間やエネルギーを費やすことが非効率であるという前提に立っている。まず第1に、Effective Size「有効規模」はネットワーク内において間接的な紐帯による重複が無く、エゴと他者の関係の独立部分を示す。第2に、Efficiency「効率性」であるが、

表7　谷の社会ネットワークの構造的空隙スコア

	EffSize	Rank	Efficience	Rank	Constraint	Rank
Tani	13.621	1	0.801	3	0.21	1
Munro	11.267	2	0.751	4	0.266	2
Ishikawa	1.2	8	0.24	18	0.642	6
Batchelor	1.5	6	0.375	11	0.74	8
Chiyo	8.167	3	0.681	5	0.327	3
Nitani B.	1.682	5	0.28	16	0.564	4
Ichibayashi	1	11	0.333	14	0.926	11
Expert	1	11	1	1	1	14
Sasaki	1.1	9	0.367	13	0.97	13
Onodera	1	11	0.5	7	1.125	16
Keller	1	11	0.5	7	1.125	16
Lawyer	1	11	1	1	1	14
Shakai–ka	1	11	0.5	7	1.125	16
Kuroda H.	1.056	10	0.211	19	0.662	7
Tani's Bro.	1	11	0.5	7	1.125	16
Pete	1.5	6	0.375	11	0.74	8
Kaizawa M's Sons	1	11	0.25	17	0.766	10
Nitani I.	1	11	0.333	14	0.926	11
Tani's Wife	2.6	4	0.52	6	0.599	5

有効規模をネットワーク内の他者の数で除すことによって、他者との重複性がなく、有効に機能している紐帯の割合を示す。第3に、エゴがどの程度、互いに結合している他人と関係しているかを計算するConstraint「拘束度」は、ネットワーク内の他の行為者から課されている拘束度を示す[24]。これらの指標を使って分析した結果を表7、表8に示す。前2者は降順で順位をつけ、拘束度は数値が低いほど組織内でのパフォーマンスが高くなるので、昇順でランキングしている。もちろんこれらの数値は、紐帯の存在が情報や利益を伝達させるという前提に基づいているので、その数値を絶対視することは慎まなければならないであろう。

表8　マンローの社会ネットワークの構造的空隙スコア

	EffSize	Rank	Efficiency	Rank	Constraint	Rank
Munro	54.879	1	0.963	16	0.061	1
Tani	11.313	3	0.754	19	0.302	3
Chemist	1	34	1	3	1	36
Police	1.857	21	0.464	47	0.738	21
Chiyo	24.653	2	0.88	17	0.214	2
Ichibayashi	2.455	12	0.409	53	0.551	10
Seligman	2.167	14	0.542	25	0.775	22
Local Patients	2.643	10	0.529	26	0.685	19
Karuizawa Res.	1	34	0.5	28	1.125	48
MLM	1	34	0.5	28	1.125	48
Sasaki	1.5	24	0.375	56	0.785	23
Sasaki's Son	1	34	0.333	60	0.926	26
Frankly	1	34	1	3	1	36
Nakamura	3.55	4	0.507	27	0.53	6
Keller	1	34	0.5	28	1.125	48
Landor	1	34	0.5	28	1.125	48
Batchelor	3.455	5	0.576	23	0.55	9
Freud	1	34	1	3	1	36
Kuroda	1.75	22	0.438	52	0.722	20
Adele's Bro.	1	34	0.5	28	1.125	48
Governor	1.4	25	0.467	44	0.947	30
Fleisher	1	34	0.5	28	1.125	48
Fleisher's Fa.	1	34	0.5	28	1.125	48
Morrison	1	34	0.5	28	1.125	48
Morrison's Fa.	1	34	0.5	28	1.125	48
Arima	1	34	1	3	1	36
Kunematsu	2.773	9	0.462	48	0.536	8
Lawyer	1	34	0.5	28	1.125	48
Sev. Ekashi	1.333	28	0.444	50	0.882	25
Stevens	1	34	1	3	1	36
Servant	1.944	20	0.389	55	0.654	17
K's Dau.	2	17	0.4	54	0.618	16
Onodera	1.333	28	0.444	50	1.049	47
Leverhulme	1	34	0.5	28	1.125	48
Murakami	1.167	30	0.583	22	1.235	63
Toku	1	34	0.5	28	1.125	48
Iris	1.667	23	0.556	24	0.84	24
Adele	3	6	0.75	20	0.535	7
Tanaka	2.5	11	0.833	18	0.604	15
Tanaka's Son	1	34	1	3	1	36
Raymon	1.1	31	0.367	57	0.97	33
Kuroda's Son	1.1	31	0.367	57	0.97	33
Andrews	1	34	0.333	60	0.926	26
Matsuzaki	2.857	7	0.714	21	0.565	14
Sev. Relatives	2.167	14	1.083	1	0.556	12
Fukuchi	1.4	25	0.467	44	0.947	30
Official of NK	2.167	14	1.083	1	0.556	12
Manager of NK	2	17	1	3	0.5	4
Karuizawa Com.	1	34	0.5	28	1.125	48
Takabeya	1	34	1	3	1	36
Shiga	1	34	1	3	1	36
Soncho	2.85	8	0.475	43	0.551	10
Saiki	1	34	0.5	28	1.125	48
Konoye	1	34	0.5	28	1.125	48
Shi Chocho	2.25	13	0.45	49	0.679	18
Hidaka M.	1	34	1	3	1	36
Dealer	1.1	31	0.367	57	0.97	33
GG	2	17	1	3	0.5	4
GG's Son	1	34	1	3	1	36
DEF	1	34	0.333	60	0.926	26
K's Sons	1	34	0.333	60	0.926	26
MJR Adele	1	34	1	3	1	36
Nakajima	1.4	25	0.467	44	0.947	30

谷のネットワークでは、有効規模、効率性、拘束度の順でTaniがそれぞれ1位、3位、1位となっており、Munroが2位、4位、2位、Chiyoが3位、5位、3位とそれに次ぐ地位を占めている。一方マンローのネットワークでは、Munroが1位、16位、1位、Taniは3位、19位、3位、Chiyoは2位、17位、2位となっており、ネットワーク内で高い能力を発揮できるポジションにいることが特徴である。他に総体的に順位の高かった人物としては、Batchelorの5位、23位、9位、Adeleの6位、20位、7位、Sev. Relativesの14位、1位、12位、Official of NKの14位、1位、12位、Manager of NKの17位、3位、4位、GG（ある知り合いのドイツ人）の17位、3位、4位、Nakamuraの4位、27位、6位、Kunematsuの9位、48位、8位などが挙げられる。中心性の数値と同様、ここでもBatchelorの高い順位が目を引く。好意的あるいは否定的な評価にかかわらず、マンローが当時強く意識していた人物のスコアが高くなる傾向が認められる。

5　マンロードキュメントの活用にむけて

マンローのアイヌ研究がどのような動機や目的に基づいて実施されたのかについては、これまで、本人の性格や思想を推測して考察することが一般的であった。純粋な知識欲以外にも、アカデミズムへの貢献といった名誉欲などの要素を度外視することはできないが、公刊資料だけに基づいて動機の解明にいたることは難しい。マンローのアイヌ研究成果を、現代的な活用にも耐えうるものとして取り扱えるかどうかを判断するためには、当時の研究対象となった人びととの関係性や研究手法、研究倫理など、

それらが産み出された経過を正確に把握する必要がある。

研究対象地域やコミュニティ内外の人物と実際のところどのような関係を構築していたのかは、マンローのアイヌ研究の質と量にも大きな影響を与えたと考えられる。TAH に所蔵されているマンローと第3者間でやりとりされた私的な書簡類は、マンローのアイヌ研究の目的や意図を、むしろ正直に伝えているものが多く、それらを理解する上ではかりしれない価値を有する。今後 RAI や NMS 所蔵資料との対比によって、他の関心時等を明らかにすることで、より当時の様子を浮き彫りにできると思われる。

SNA 分析は特定個人の資質や行動を考慮せずに、ネットワーク内のすべての人物の定量化をはかってネットワーク全体における人間関係の特徴を導き出す方法であり、主観的な見方や見落としを抑制することができる。しかし、そのようなグラフやスコアが生じた理由や背景については、ネットワーク内それぞれの人物が歩んだ歴史の正確な理解が欠かせないであろうことは疑いない。今回はマンローと彼を取り巻く人物との関係を理解するために、TAH の書簡を元にネットワークの密度、クリーク、中心性、構造的空隙などの指標を使ってコミュニティ内外の人物との関係を検討した。これらの結果は、マンローのアイヌ研究が、マンローの個人的な資質、および属性からだけではなく、マンローを取り巻く様々な人物のネットワークによって可能になっていたことを視覚的かつ実証的に説明している。このこと、人類学的フィールドワークの成果が、通常は研究者一個人の努力によってもたらされたと考えがちな個人主義的成果至上主義とは相いれないものであろう。

マンローは谷宛の書簡のなかで、二風谷には「真の友人がいない」とか「デマに辟易」と繰り返し述

べているし、マンローに害悪を及ぼすと信じて疑わなかった人間やグループの存在が、社会ネットワークの図にもはっきりと捉えられている。それにもかかわらず、戦時中で物資や言論統制が厳しくなる情況下にあっても、様々な人脈という社会関係資本を利用して多くのことを達成していることがわかる。中心性をはじめ、有効規模、効率性、拘束度などの数値が、ネットワーク内で他の人物よりも比較的自由に振る舞える立場にあったことを示唆しており、意外にもしたたかに生きている部分が鮮明になったことは興味深い。とくに行政のネットワークをうまく活用していることがTAH書簡の特徴である。とはいえ、谷との出会いはマンローにとっては幸運なことだったに違いない。

今回の結果は、人間の基本的な生活習慣の樹立や変更において、これまでもっぱら個人の資質に焦点をあてて解釈してきたことに対し、人々はつながっているのだから、親しい人々からなる社会ネットワークを通じた影響も無視できないほどに大きいことを明らかにした最近の研究成果[25]とも通底している。

一方で、TAH資料からは、アイヌ研究の目的を推しはかるために重要なアイヌとの接点があまりはっきりとは見えてこない。この点ではアイヌインフォーマントに関する記述が充実しているRAIやNMS資料の方が優れている。それでも、TAH資料だけに依拠した場合にも、身近なアイヌの人々の怪我や病気を気にかけているのみならず、アイヌ集団全体の健康問題に関する懸念をも表明していることが明らかである。そしてアイヌだけではなく、軽井沢でも同様に貧しい人たちへ共感し、採算を考慮しない医療行為を実践していることから、マンロー特有のヒューマニズムの思想を認めることができる。アイヌ文化にかかわる伝統的な民族知識を取り出すために、意図的な互恵関係を築いたのではなさそう

である。

私的な書簡類の具体的な分析によって、マンローが記録した映像を含むドキュメント群に、それらが生み出された背景などの詳細な補足情報が付加され、デジタル環境（例えばデータベース化）が整備されれば、調査地となった二風谷に暮らすアイヌと和人双方からなる人々がマンロー資料に容易に接することができるようになり、郷土の歴史や文化についての関心や理解が大いに深まると予想される。さらに人々との交流を志向する自発的な気運が高まり、アイディアを交換することでより充実した資源が共有され、エンパワーメントの性質が醸成され、信頼や互酬性の規範が育まれる可能性があろう。信頼があると自発的な交流はさらに加速し、長期的に社会の上に価値のあるものを生み出し、ある共通の目標に向かって連帯を加速させることになる。これは、近年、自己実現や精神的な健康の向上にも有用であるとして注目され、信頼・規範・ネットワークなど、協調的な行為を促すことによって社会の効率を高めうる社会組織上の特性を表す「社会関係資本」の概念に近い[26]。

社会ネットワーク分析による研究成果は、それらのデータを安心して活用するための一つの判断材料となりうる。アイヌ民族を含む現代人が、今となってはすでに再構成が難しくなっている昭和初期の民族誌や郷土史の理解を促進するために、マンローが自ら築き上げた当時の社会関係資本に依拠して収集した貴重な民族知識を、現代の人々が世代間のコミュニケーションを豊かにする際にも、新たな社会関係資本として積極的に活用していくことが望まれる。

（てづか　かおる・北海学園大学准教授）

［註］

（1）日本とイギリス、スコットランドに残された書簡類、写真、新聞、ランタンスライド、フィルム、ネガなどを、デジタル化し、被調査者に配慮した上で原則的に公開しようとする取り組みをさし、マンロープロジェクトと称されている。このプロジェクトは、国立歴史民俗博物館（NMJH）、北海道開拓記念館（HMH）、国立スコットランド博物館（NMS）、王立人類学研究所（RAI）の各機関が所蔵するマンロー関係資料の公開と活用を前提として発足した。本プロジェクトに研究協力者として参加している平取町のアイヌの代表者が、本プロジェクトの成果物に関連のある個人やアイヌ民族の名誉権、プライバシー権、その他の人格権、人格的利益を守り、かつ、本プロジェクトの成果物が学術研究、およびアイヌ文化の伝承のために有意義に使用することができるよう、公開基準を提案している。

実際に合意に達した公開基準の内容としては、写真については「着物を着けない状態で人物を撮影した写真は完全非公開とする」や「2．人物を標本のようにして撮影した写真および女性が着物の上から身につけている守り紐（Upsoro Kut，ウプソル）の写真については、オリジナル資料を所蔵する機関、国立歴史民俗博物館、RAIにおいて、当該機関が正当と認める研究目的での利用の場合、研究者の閲覧に供することができる。プリントアウト、写真撮影などの複製は、これらの利用者に対し許可しないこととする」、「3．人物の肖像を撮影することを主たる目的として作成された写真のうち、人物を標本のように撮影したものでない写真は、被撮影者またはその遺族が承諾した範囲でのみ公開できることとする」など5項目から成る。また、文書については「2．マンローおよびマンローに関係する人々が、公開することを前提として書いていない文書（手紙など）は、その文書の書き手の人権保護の観点から、どこまで公開するかについて、オリジナル資料を所蔵する機関が責任をもって適切に判断しなければならない。また、手紙に書かれている内容のうち、平取町に在住の個人やアイヌ民族の名誉権、プライバシー権、その他の人格権あるいは人格的利益に関わる情報に関する部分については、伏せ字の処理を施すなどしてそれらの情報を読めないようにした上で、オリジナル資料を所蔵する機関が適切と判断する範囲で、閲覧、展示、出版、翻訳に供することができるものとする」など2項目から構成されている。

（2）クリフォード・J／マーカスG. E. 編、春日春樹他訳『文化を書く』紀伊国屋書店、一九九六年、〔原著Clifford,

J. and G. E. Marcus (eds.) *Writing Culture: the Poetics and Politics of Ethnography* (Berkeley and Los Angeles: University of California Press, 1986)]。

(3) 顕彰する動きとしては、毎年六月前後に「マンロー先生の遺徳を偲ぶ会」が主催して開かれる記念祭がある。ここでは実際に生前のマンローを知る人たちも参加して思い出話に花が咲く。

また、過去にアイヌ民族を対象としたフィールドワークを実施した学者が、調査対象となった当人たちの間で、それら人物の記憶がどのように伝承されているかについては、次の3つの類型に区分できそうだという（北原次郎太氏〔北海道大学アイヌ・先住民研究センター〕のご教示による）。

A　村人の評判が良好であり続ける人

B　村人の評判が悪い人

C　賛否両論ある人

もちろん、あくまでも主観的な分類で、すべての村人の意見が一致するわけではないが、それらが生じた相違の背景を考察することは、フィールドワークの本質を考える上で意義深い。この類型にマンローを当てはめるとすれば、Aに相当すると判断してもおそらく異論は少ないであろう。

(4) 近年日本でも、研究を研究者が独占するのではなく、だれのために研究がなされるのかを自覚すべきだという機運がとみに高まっている。先住民族の文化遺産や人骨標本を扱う考古学者や人類学者にとっても、このような方向性とは無縁ではない。世界考古学会議におけるバーミリオン協定のような倫理綱領の遵守や学会が倫理コードの整備をてがける取り組みがはじまろうとしている。一方で、日本では調査を行うにあたり、倫理基準を設けて明確に文章化する手続きにはまだ抵抗が見られる。研究する側と研究される側のかかわり方は多様であり、調査地の実態に即した着実で現実的な手法が採用されるべきなのはいうまでもない。しかしながら、日本でもようやく「インフォームド・コンセント」、「人間の尊厳の尊重」、「参加型の調査」という3つの明確な調査倫理を掲げて沙流川流域でアイヌ文化を対象とする調査を実施するなどして着実な経験を積み重ねている事例（岩崎まさみ「研究する側と研究される側―先住民族調査における課題―」、北海道大学アイヌ・先住民研究センター編『アイヌ研究の現在と未来』二〇一〇年、272―273頁）があり、今後の進展を見守って行きたい。

(5) これらは次の3つの研究費の支給を受けて実施された。研究期間、研究費名称、研究課題、研究代表者の順に記す。
平成17年度〜平成20年度人間文化研究機構連携研究・文化資源の高度活用「アイヌ文化の図像表象に関する研究—『夷酋列像図』とマンローコレクションのデジタルコンテンツ化—」(研究代表者佐々木史郎)、平成18年度〜平成20年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究C「欧米の人類学映画・写真に見えるアイヌ文化のイメージ」(研究代表者内田順子)、平成18年度〜平成20年度国立歴史民俗博物館共同研究・基盤研究・高度歴史情報化研究「マンローコレクション研究—館蔵の写真資料を中心に—」(研究代表者内田順子)。

(6) のちに改名して谷万吉を名乗る。

(7) 出村文理編『ニール・ゴードン・マンロー博士書誌:帰化英国人医師・人類学研究者』私家版、二〇〇六年(187—188頁)。

(8) 比較的多くのものが残されていると考えられるが、散逸して失われたものもある。

(9) 富沢寿勇「序論:人類学的フィールドワークの外延と展望」『文化人類学』72(3)、二〇〇七年(347頁)。

(10) 青木とき「旅人たち6 マンローさんの思い出」近畿日本ツーリスト編『あるくみるきく』No.80、一九七三年(42頁)。

(11) 手塚薫「マンローをめぐる人々」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構編『海を渡ったアイヌの工芸:英国人医師マンローのコレクションから』二〇〇二年(98頁)。

(12) 関本照夫「フィールドワークの認識論」伊藤幹治/米山俊直編『文化人類学へのアプローチ』一九八八年(269—270頁)。

(13) Durans, Brian. Intoroduction. Olsen, B. (ed.) *Ainu Material Culture from the Notes of N. G. Munro in the Archive of the Royal Anthropological Institute.* (London: Britsih Musem Press, 1994), p. 28.

(14) 野沢慎司編『リーディングスネットワーク論:家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房、二〇〇六年(序論参照)。

(15) ウオウター・デノーイ、アンドレイ・ムルヴァル、ヴラディミール・バダゲーリ著『Pajekを活用した社会ネ

ットワーク分析』安田雪（監訳）、東京電機大学出版局、二〇〇九年（3頁）、〔原著 De Nooy, W, Mrvar A., Batagelj, V. *Exploratory Social Network Analysis with Pajek*（New York : Cambridge University Press, 2005）〕。

(16) http://www.analytichtech.com/networks/egonet.htm 参照。

(17) 岩波書店創業者岩波茂雄は、学問、文学、芸術、芸能、社会的行動に関し、すぐれた業績を残した人物にたびたび感謝金を贈呈している。鷹部屋から偶然マンローのアイヌ研究を伝え聞いた岩波は一九四〇年にマンローに対し感謝金1千円を贈ったという。安倍能成著『岩波茂雄伝』岩波書店、一九五七年（394―395頁）参照。

(18) 安田雪著『ネットワーク分析：何が行為を決定するか』新曜社、二〇〇一年（97頁）。

(19) 桑原千代子『我がマンロー伝：ある英人医師・アイヌ研究家の生涯』新宿書房、一九八三年（197頁）。

(20) 金光淳著『社会ネットワーク分析の基礎：社会的関係資本論にむけて』勁草書房、二〇〇三年（135頁）。

(21) Mizoguchi, Koji. Nodes and Edges : A Network Approach to Hierarchisation and State Formation in Japan. *Journal of Anthropological Archaeology* 28, 2009（p. 20）.

(22) 増田直紀著『私たちはどうつながっているのか』中央公論新社、二〇〇七年（195頁）。

(23) ウオウター他前掲書（205―209頁）。

(24) 安田雪『実践ネットワーク分析：関係を解く理論と技法』新曜社、二〇〇一年（114頁）。

(25) J. N. Rosenquist, J. Murabito, J. H. Fowler, N. A. Christakis. The Spread of Alcohol Consumption : Behavior in a Large Social Network. *Annals of Internal Medicine* 152（7）, 2010（pp. 426–438）.

(26) バート、ロナルド S.「社会関係資本をもたらすのは構造的隙間かネットワーク閉鎖性か」野沢慎司編『リーディングスネットワーク論』勁草書房、二〇〇六年（245頁）。